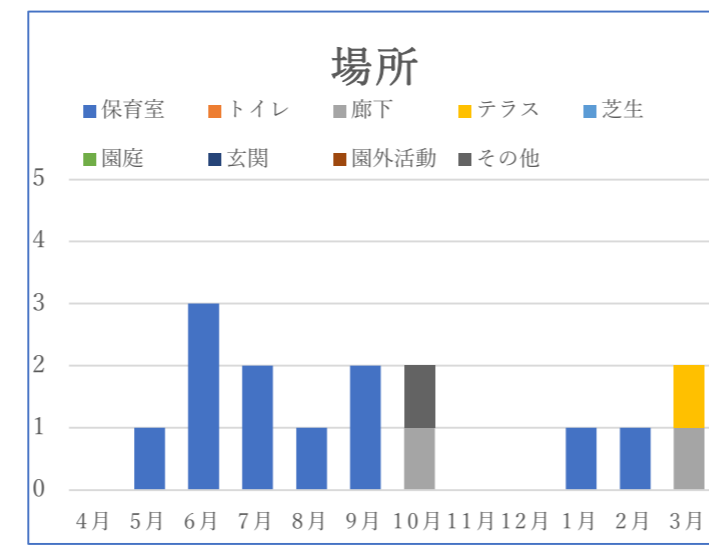
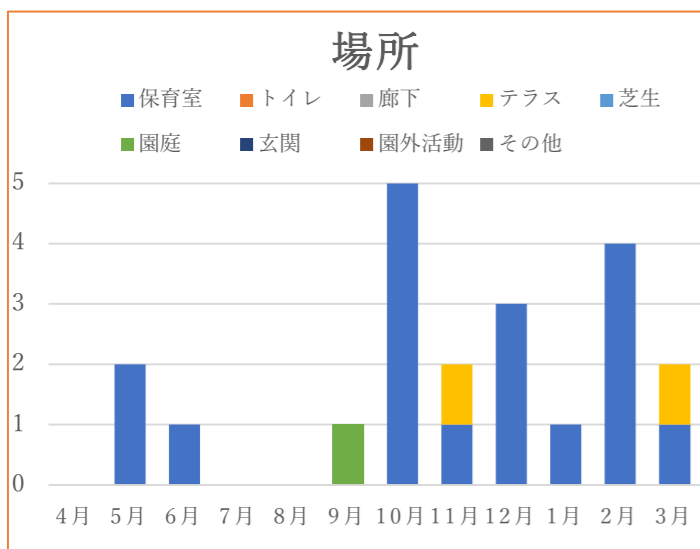
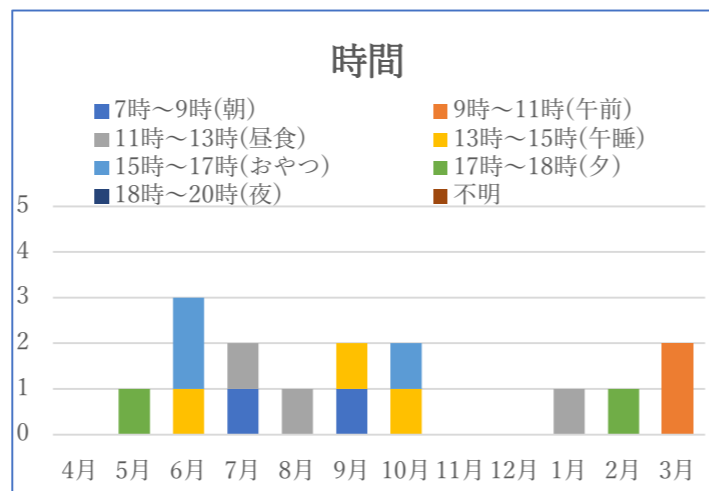
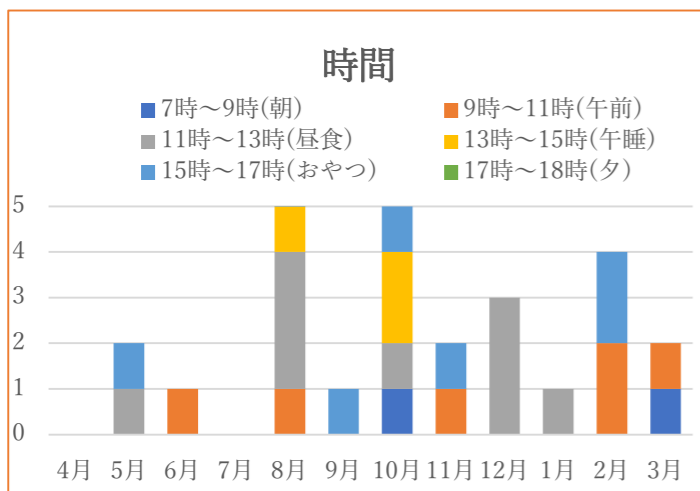
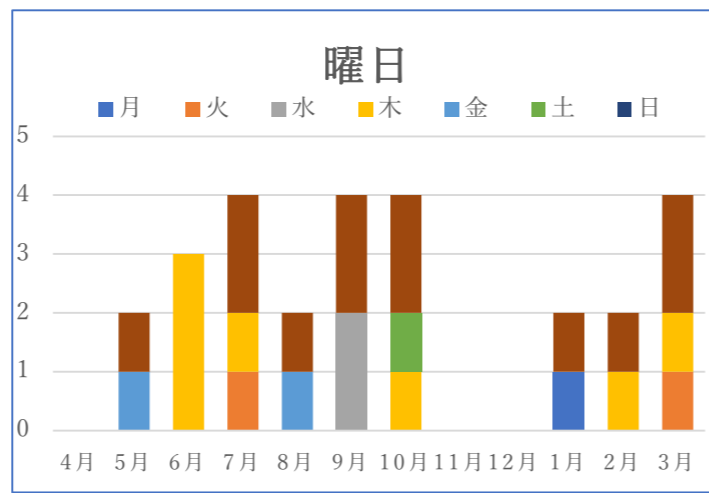
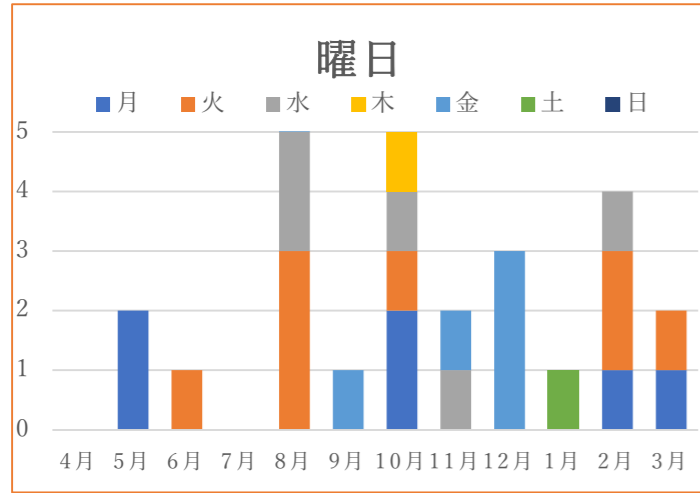


# 令和4年度 リスクマネジメント報告

## <虹組 0歳>

### <虹組>

#### インシデント



- 4月 慣らし期間で保育時間も短かったため、丁寧に対応ができ怪我等がなかった。
- 5月 保育室が広くなり星組との合同になった際に連携がうまくいかず、怪我が生じてしまった。保育室の使い方、合同の際の連携について話し合い、安全に保育が行えるようにしていく。また、乳児の発達に伴うリスクを念頭に置き、丁寧に保育を行った。
- 6月 噛みつきと、保育者の不注意が原因のヒヤリハットが多く出ていた。他児への興味や自分でやりたいという意欲を汲み取り、噛みつきや手が出てしまう行為を防いでいった。玩具の使い方や子どもの動き等、安全に過ごせるように様々な事柄を想定して対策した。
- 7月 他児への関心が高まりトラブルも増えた。保育室に小さい物が落ちていたため、誤飲のリスクがあった。保育者が見本となり、他児との関わり方を伝えていった。小さい玩具は子どもの手が届くところに置かないようにし、誤飲の対策を行った。
- 8月 つかまり立ちやハイハイが出来るようになり、バランスを崩すことが多くなった。体の使い方が身につくよう保育者が近くで見守りつつ、体幹が育つ遊びを十分に取り入れていった。
- 9月 誤飲未遂、他児とのトラブルが主に見られたので、保育者がそばで見守るよう注意した。対象児を抱っこしオフィスチェアに座ろうとし保育士が尻もちをついた。移動に際しては細心の注意をしていく。他児とのトラブルは引き続きやり取りを見守り、時には見本を示していった。
- 10月 他児に興味を示して手を伸ばす事での怪我や、自己主張が出てきて玩具の取り合いから噛みつきに発展する事が多く見られた。引き続き他児との関わり方の見本を示しながら伝えていき、玩具数の見直しや大きな怪我につながらないように近くで見守った。
- 11月 床に落ちていた物を拾って口に入れてしまう事や、友だちに興味を持ち手を伸ばした際に噛まれてしまう事があった。異物や玩具の破損がないか等確認しながら保育を行った。
- 12月 バランスを崩すことや、動きが活発になったことで、けがが多くなった。先の動きを見越して、安全に遊べる環境や距離感、物の位置を考えていった。高月齢児と低月齢児での動きの差があること、興味の出ている内容が異なるため、遊び方・関わり方を仲立ちをしていくようにした。
- 1月 子どもが畳と床を区切る為に置いていた柵を押し、倒れてしまった。自由に移動できるように柵を置かず開放し、区切る際は柵の扉を閉めるようにした。
- 2月 玩具の取り合いのトラブルやバランスを崩しての怪我が多かった。玩具の取り合いがエスカレートした場面では間に入るようにする。肘かけ無しの椅子を使う際は必ず保育者が側につくようにした。
- 3月 先月に引き続きバランスを崩しての怪我が目立った。廊下に面したトイレのスライドドアの施錠が甘く、対象児がつかまった際にドアが動いてしまい手を挟みそうになった。施錠を必ず行うようみんなで気をつけた。遊びの中で踏ん張る力が付く動きや、転倒した際に手で身体を支えられるような動きを取り入れていった。

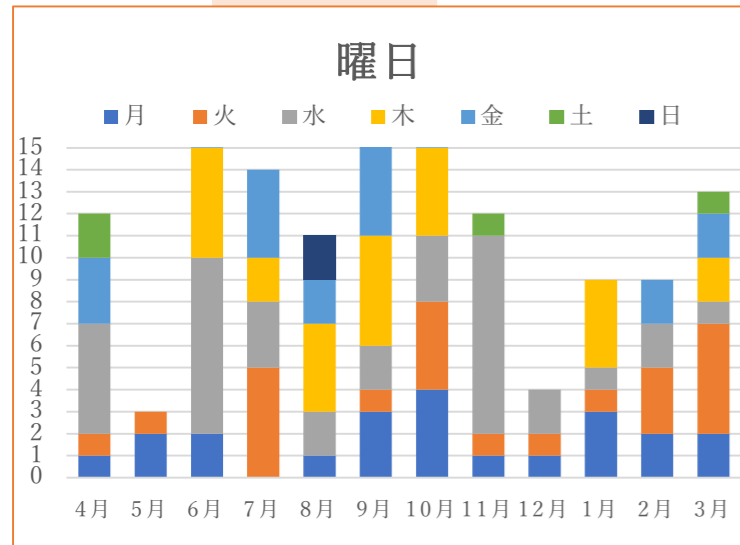
#### <まとめ>

- ・バランスを崩しての怪我や他児に興味が出てきたことによるトラブルが多かった。
- ・ハイハイをする・トンネルなどをくぐる・斜面や階段を登るなどの身体を動かす遊びを引き続き取り入れ、身体の使い方を身に付けられるようにしていく。他児との関わり方 11 を伝え、こちよく遊べる環境を整えていく。

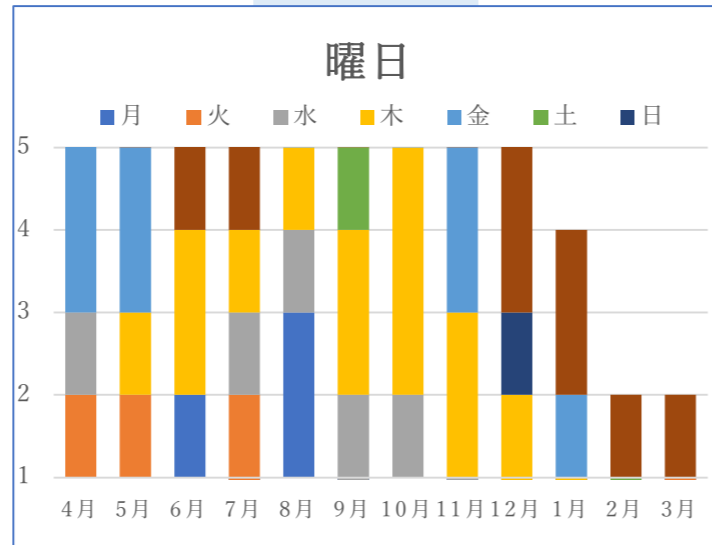
# 令和4年度 リスクマネジメント報告

## <星組 1歳>

### インシデント

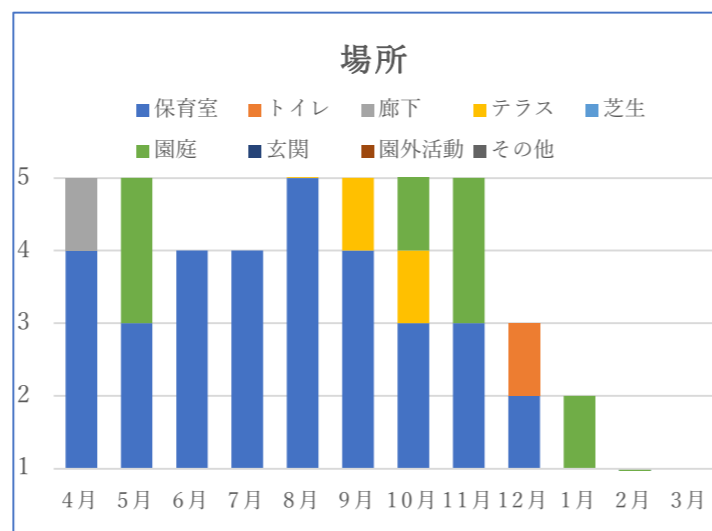
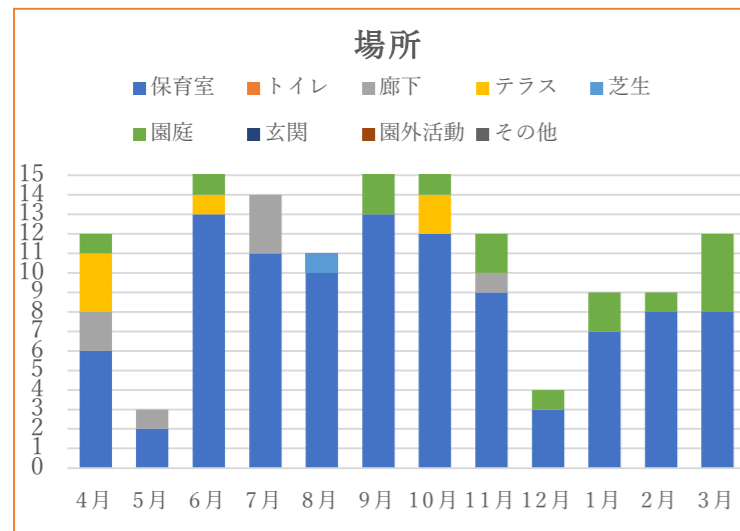
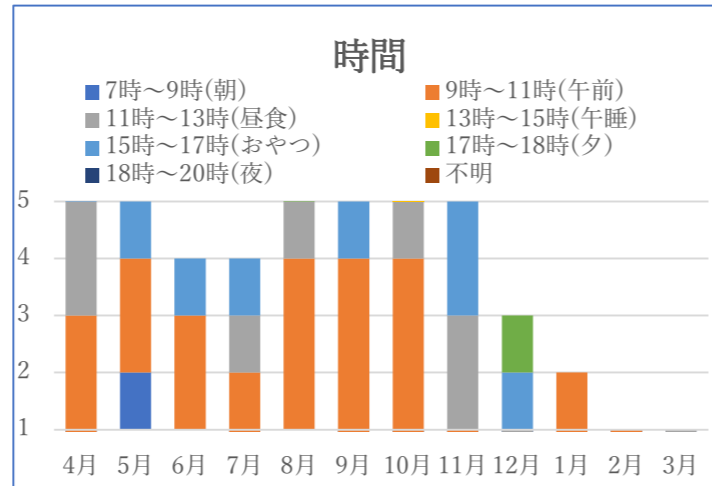
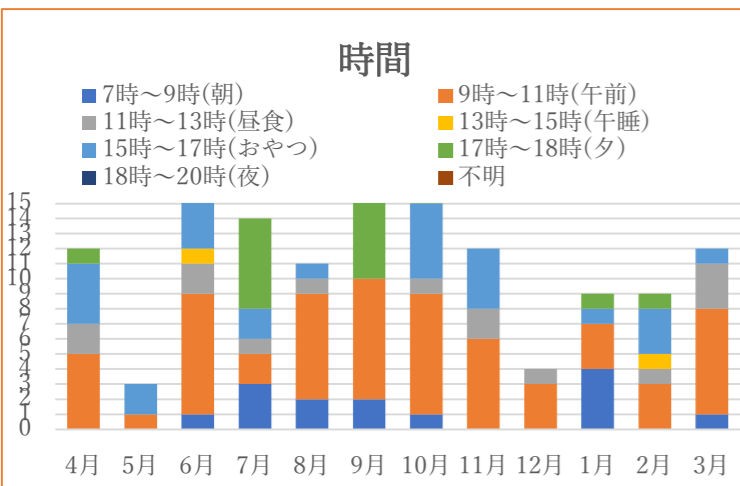


### ヒヤリハット



### <星組>

- 4月 嘔みつきが多かった。体のバランスを崩す、転ぶなどによる怪我也多かった。新入園児が多く全体的に不安定な子が見られ、うまく想いが伝えられず嘔むことが多かった。新入園児だけでなく、在園児にも気を配って対応した。
- 5月 水筒持参が始まり、足に落とすことがあった。虹組の新しい収納スペースへ入ってしまった。コロナ感染で二度クラス閉鎖があったため、インシデント数は少なかった。
- 6月 A.Sが同じ場所でケガをしていた。ひじ掛けなしの椅子で転倒し、後頭部ぶつけることが続いた。虹・星間の柵の開け閉めをする子が多くなった。柵の狭い隙間に足が入り抜けなくなることが同じ子で二度起きた。再度クラス職員に伝え、同じことが起きないように十分に注意する。
- 7月 保育室でのインシが最多。子ども同士の衝突、未遂を含めた嘔みつきが多かった。職員同士で声を掛け合い連携を大切にしていた。言葉が出ない分、気持ちを汲み取り職員が仲立ちをしていた。
- 8月 ヒヤリは月曜日に起きることが多かった。体のバランスを崩して転倒や、他児を巻き込んだ転倒があった。個々の遊びから、2～3人で遊ぶようになってきたので、玩具の使い方や室内での遊び方に留意した。
- 9月 体のバランスを崩しての怪我、嘔みつき引っ掻きが多かった。爪のチェックをこまめに行っていた。爪のチェックは職員間でだけでなく保護者にもお願いし、リスクを減らせるようにしていた。
- 10月 嘔みつき、不注意での転倒・打撲があった。ヒヤリでは微細物を子どもが見つけたたり、口に含む・水筒についていたりすることがあった。トラブルに対処できるように、子どもたちのやり取りや関わりを見守っていた。保育環境の整理整頓・清掃に加えて、故障・破損も日ごろから点検していった。
- 11月 他児との関りが増え、それに伴う物の取り合いなどで嘔んだり引っ掻いたりが目立った。やりとりがヒートアップしすぎないように言葉でのやり取りを促したり、モデルになるような言葉をかけたりしていった。
- 12月 活発さが増し、固定遊具での怪我が増えた。成長に伴い関心が広がり、以前とは異なる遊び方や危険な行動も増えていった。発達に合っていない・間違った玩具の使い方など、子どもの動きを想定し対処していった。こまめな人数確認、各箇所の戸締りにも注意する。
- 1月 よそ見をしながら走って転倒したり、廊下の開け閉めができるようになった事で指を挟めたりなどの 怪我が多かった。成長とともに力の強さがあり、思わぬ怪我につながることもあるので見守りや声掛けを行っていた。
- 2月 戸外遊び後、入室する際自分で戸を開閉し手足の指を挟むことが続いた。保育者が開閉を行うようにし、鍵をかけるように注意した。
- 3月 身体を使った遊びが上達し遊びが活発になり、固定遊具でのケガが多くなった。遊具には見守りを必ず付けるようことを徹底し、個人の力量を職員間で共有した。



### <まとめ>

年度の初めに多かった嘔みつきは、言葉のやり取りが増えるにつれ少なくなってきた。年度の中盤からは身体能力が高まったことで活動量が増えて行動範囲が広がり、本人も思いもよらない怪我や他児との接触による怪我が増えた。

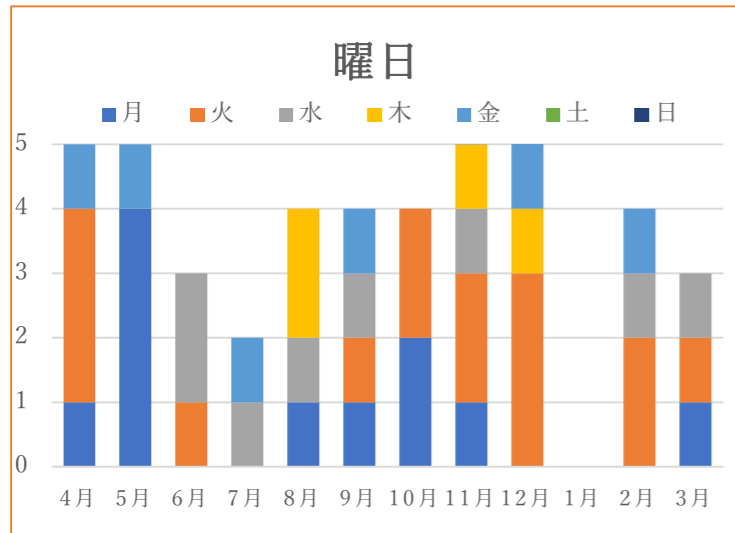
子どもの成長が著しい時期で、トラブルによる怪我と、走る・止まるなど身体の成長に子ども自身が対応できていない怪我など注意すべき点が多様だった。

# 令和4年度 リスクマネジメント報告

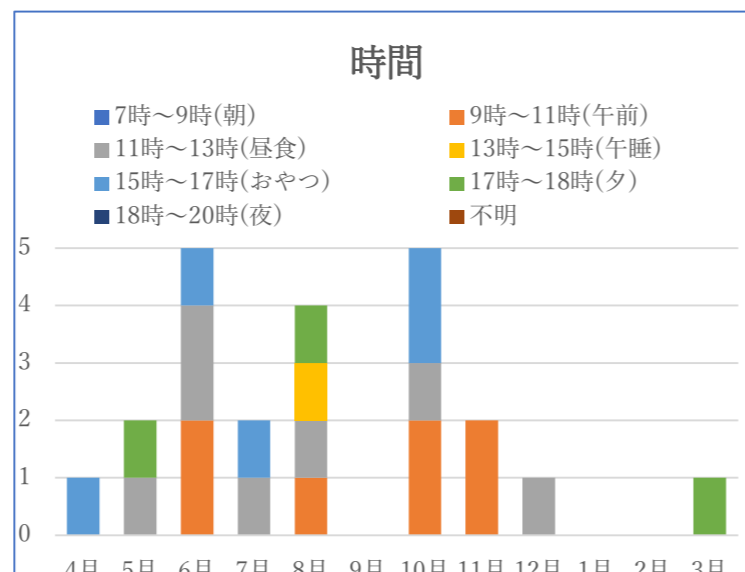
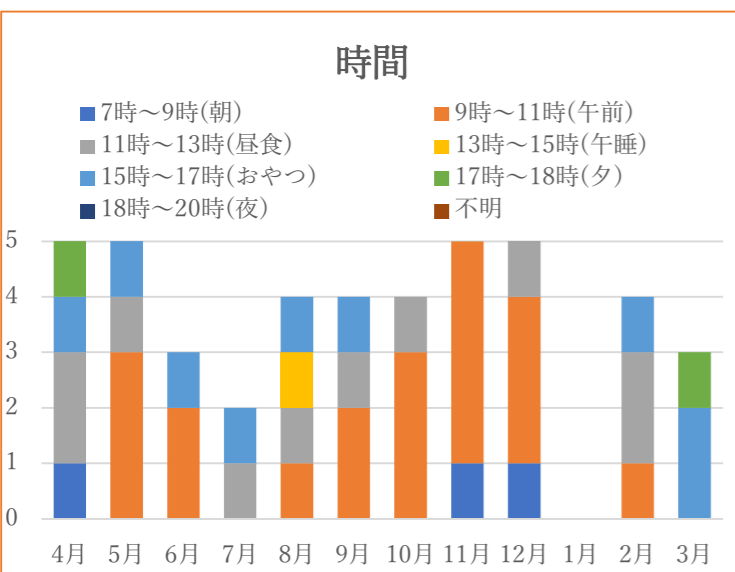
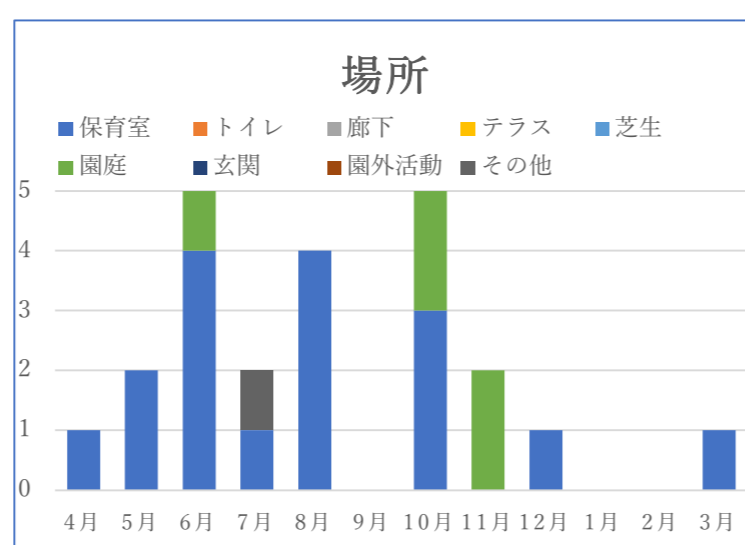
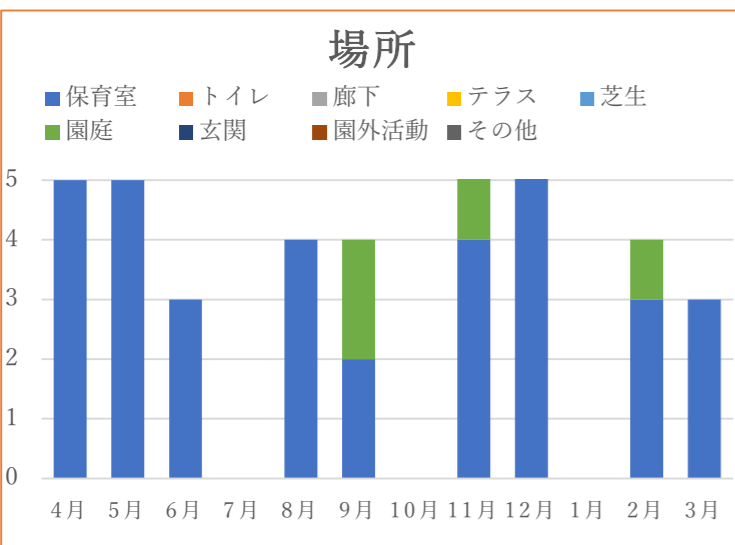
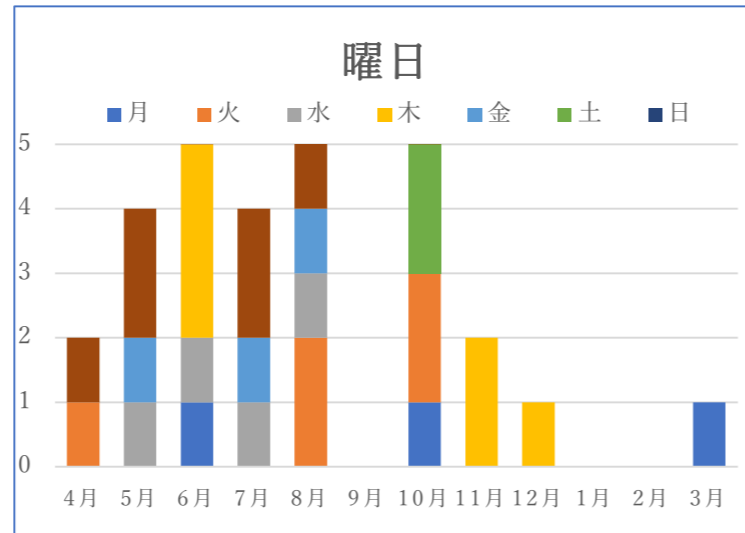
## <月組 2歳>

## <月組>

### インシデント



### ヒヤリハット



- 4月 口で伝えることがまだ難しく、手が出てしまう児がいる。口で伝えられても、思い通りにいかないと手が出てしまう。思いを受け止めながら大人が言葉にして、伝えていく。
- 5月 肋木で、バランスを崩して転落しそうになることが多々あった。挑戦する気持ちを見守りながら、けがの無いように大人が補助につくこと。子どもの人数に応じて大人の付く人数も考える必要がある。  
暑さにより気を失ってしまう児がいた。水分補給はしていたが、本児の体質も影響してか起きてしまった。  
本児の体質をよく理解し、体調や気候（暑さ指数など）によっては早めに室内に行くことも必要。**※事故報告**
- 6月 広いスペースで本児が遊ぶ目的が見つからず、気づいたら木製パズルをかじっていた。  
キッチンセットのあき穴に指を入れていて抜けなくなっていることがあった。室内の環境を変えようと検討していた時期。何をして遊べばいいかわからない、という状況を作らないようなコーナー作りやおもちゃの整備をきちんとしていく。
- 7月 肋木で遊ぶ際に、身体のバランスを崩してしまい、転落の危機やケガに繋がってしまった。危険回避が自分で出来るように、肋木の使い方や、身体の使い方を把握し、怪我のないように見守っていく。
- 8月 部屋で走り足をぶつける等のケガ。部屋の環境を変えるため、安定していない部分がある。  
玩具の位置など変わったら、その都度子どもたちに伝えていく。  
「順番だよ」と口で伝えられるようになってきたものの、他児にしつこく言ってしまい頭突きをされてしまう。  
言葉で伝えられるようになって、加減が分からない児もいる。大人が仲介に入ることが必要。
- 9月 友だちとのコミュニケーションが難しく、嬉しい表現をするときや遊びたいときの表現がしつこかったり叩いてしまったりする。大人が気持ちの代弁をしていって友達と楽しく遊べる環境を作る。  
1日いる疲れからか、日中はトラブルに対し話が出来ていても夕方は手が出てしまうことがあった。  
その子の気持ちに寄り添い仲立ちをしていく。
- 10月 木製の積み木で、他児が遊んでいるところへ一緒に遊ぼうとした本児が「自分の！」と言われ、怒って積み木で叩いてしまう。遊びたい気持ちを言葉で伝えることは分かっているが手が出てしまうことが多い本児。その子のやりたい気持ちを汲み取り大人が仲介に入ることが必要。
- 11月 玩具の取り合いが数回繰り返されていた。保育者が気づかないうちに本児が玩具を離さない他児に対して引掻いていた。保護者が傷を発見。トラブルが起きたときは、必ず視診を行う。  
朝のお集まりで、他児が遊びのコーナーへ向かっていった。本児が「お集まりだよ！」と呼びに行ったときに手が他児に当たってしまった。それに怒った他児が本児を叩いた。お互いの気持ちを保育者が代弁をして仲立ちをする。
- 12月 長いプラスチックのスコップを持って走る子が多い。躓いて転ぶなどがある。スコップによる怪我が増えてきているため、遊びの中で使い方を伝えていく。  
廊下で平均台を2台出して遊んでいた。本児が足を踏み外し前に倒れ唇の裏を切った。その時、保育者はもう一つの平均台のトラブル対応をしていた。1人で見られる環境か、他の保育者に声をかけるべきだったかを見極めることが大事。
- 1月 インフルエンザが流行し、登園児が少なかったためインシヒヤリは起きなかった。
- 2月 コットを自分で移動し、コットの上でジャンプをしたらカウンターにぶつかった。なかなか寝付けない児。体は疲れているが寝ることが難しくいろいろと動きが出る。保育者が安心して寝れるような環境、空気作りが大事。
- 3月 進級に向けて環境になれるために部屋移動を少しずつ進めていた。環境の変化に慣れない本児は手が出やすくなっていた。その子の気持ちに寄り添い、安心できる環境を作っていく。

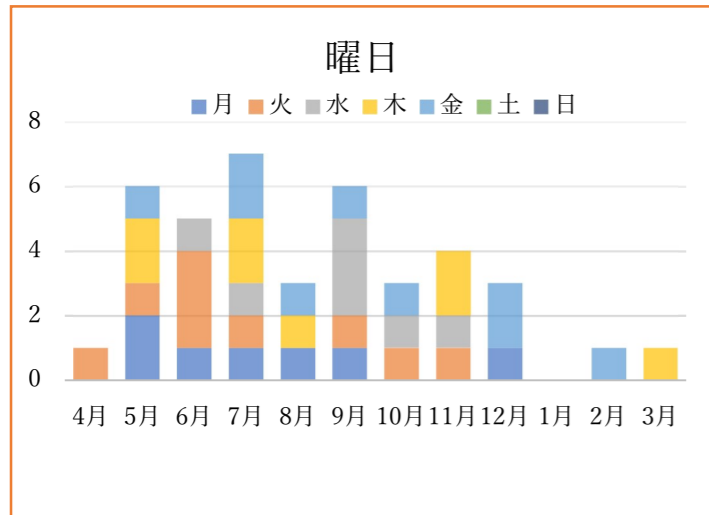
### <まとめ>

進級してから半ばまでは、自分の思いを伝える方法が難しく手がでてしまう姿が見られた。その子が何を伝えたかったのか保育者が代弁をしていく。後半にかけては、自分の思いを口で伝えようとする姿も見られた。  
部屋の環境を変えようとしていたため、環境の変化によるインシが多々起きた。部屋の環境も、その都度子どもに伝えていく。

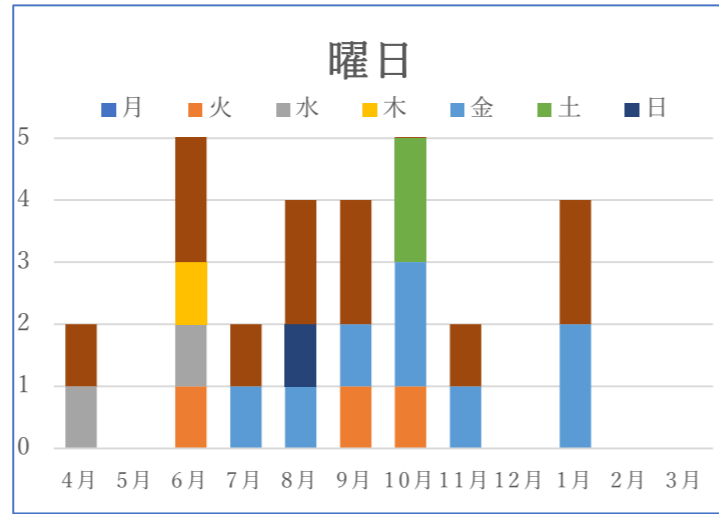
# 令和4年度 リスクマネジメント報告

## <太陽組 3歳>

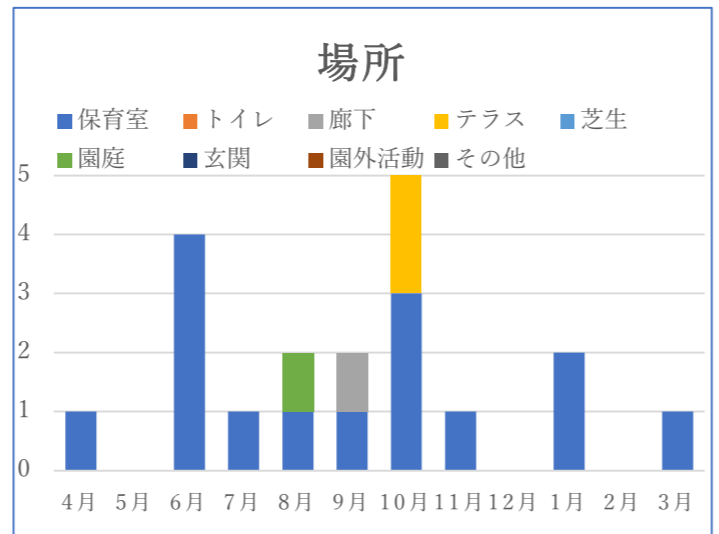
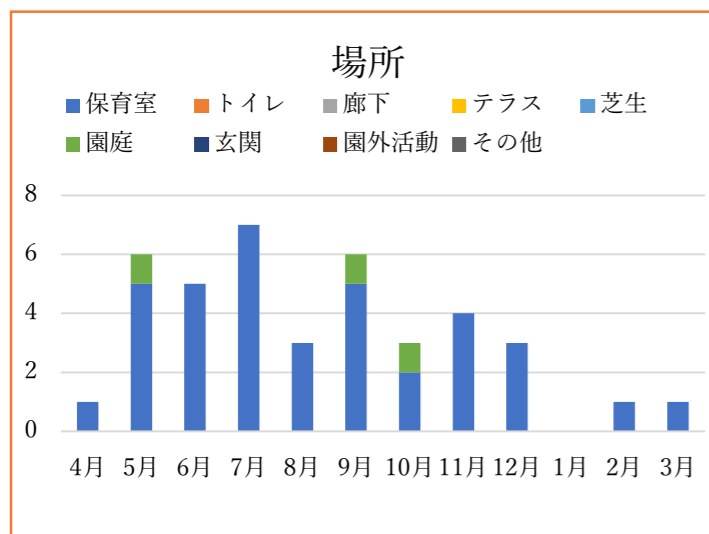
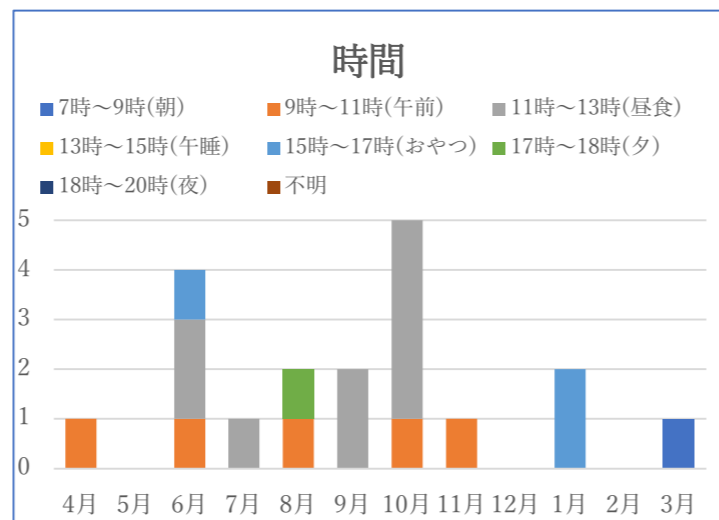
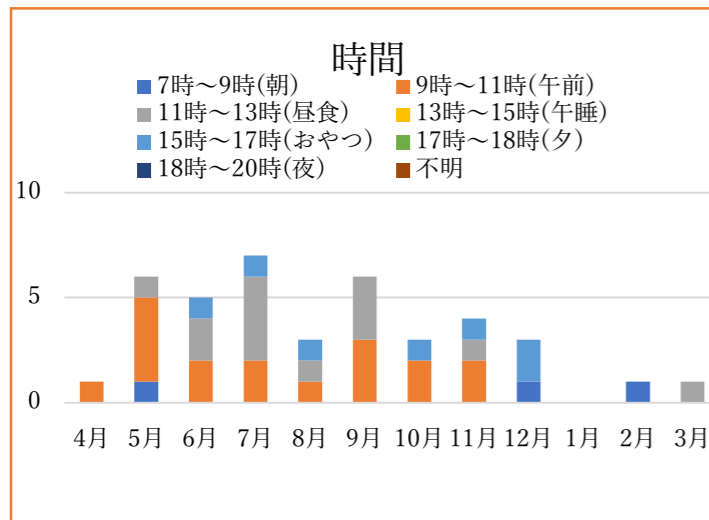
### インシデント



### ヒヤリハット



## <太陽組 3歳>



- 4月 玩具をめぐるトラブルにおいて、手が出てしまったり噛みついてしまう案件が多い。トラブルになりやすい状況や、対象児が大体絞られているので、保育者もその状況・子に合った配慮をしていく。
- 5月 玩具をめくり、勘違いからの攻撃的行動によるトラブルなど友だち間のものが多数。4月同様の対処が必要。また、気持ちを代弁し互いの思いを知るようにしていく。
- 6月 遊びに夢中になり、手が出やすくなる。室内遊びでぶつかることが多い。保育者がもう少し考えて行動していれば防げたものも多数だった。子の動きの予測をしっかりとし、見守っていく。
- 7月 場所・物の取り合い、イメージの違いからトラブルになり、怪我に繋がるが多い。お互いの気持ちを尊重し、譲り合って使うことを伝えていく。
- 8月 箱椅子で怪我をする児が多い。使い方をもう一度伝え、怪我防止に努めていく。
- 9月 玩具を巡ったトラブルで手が出てしまったり、噛みつきをする児が数名いる。双方の気持ちに寄り添って話を聞く。言葉で伝えることを教えていく。
- 10月 保育室が繋がったことで異年齢交流が盛んになる一方で、自分たちの居場所を見失い部屋にいらなかったり、走り回って落ち着かず怪我をするケースが増えた。また、注意力欠如による怪我也多かった。落ち着ける居場所作りをしていくとともに、注意力に関しては、声掛けや集中できる場づくりに努める。
- 11月 部屋のレイアウトが変わったことにより、子は物や部屋の使い方に慣れるまで、保育者も状況に応じた動きを理解するまでヒヤリや怪我に繋がるトラブルが続いた。クラスの壁を越え職員間の連携を取り、声を掛け合っていく。また、担当クラス以外の子にも気配りをしていく。
- 12月 運動遊びの部屋（ピアノの部屋）での怪我が多かった。空間を上手く使い怪我無く遊べるように環境を設定していく。
- 1月 木のパーテーションが軽く、浮いてしまうことが何度かあった。寄りかかったり、またいだりすると危険なことを子どもたちに伝える。
- 2月 遊びに飽きてしまい、危険な遊びをしてしまうことがあった。体を動かせる遊びや、他の遊びを考える。
- 3月 4月に比べるとだいぶ減ったが、まだ噛みつきがあった。嫌なことは話して伝えるように伝える。

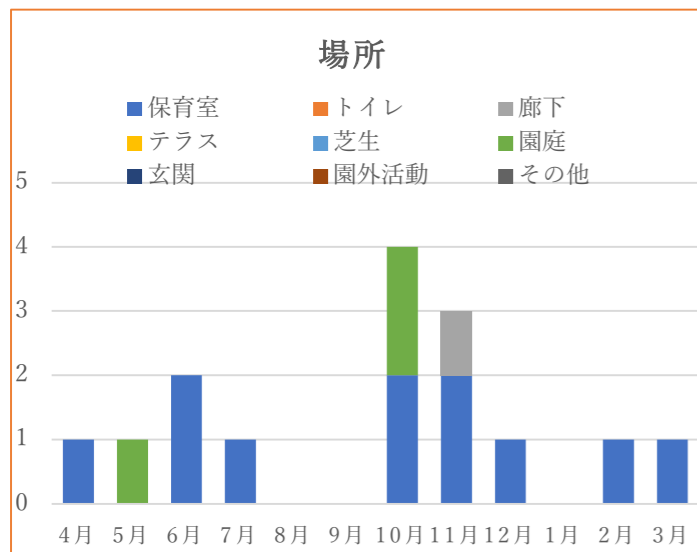
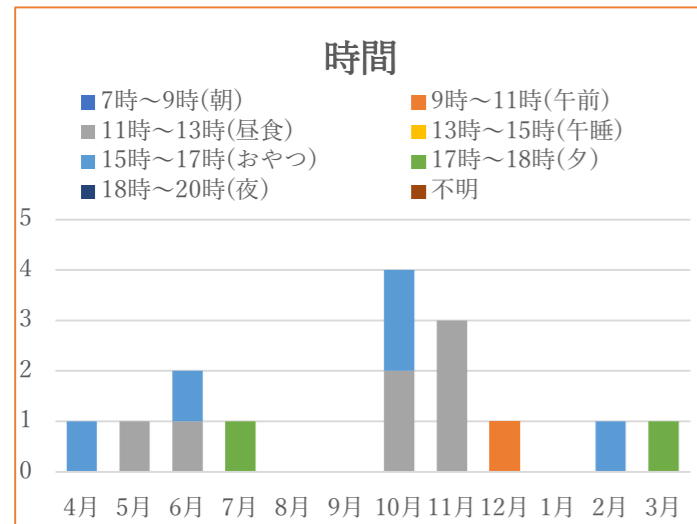
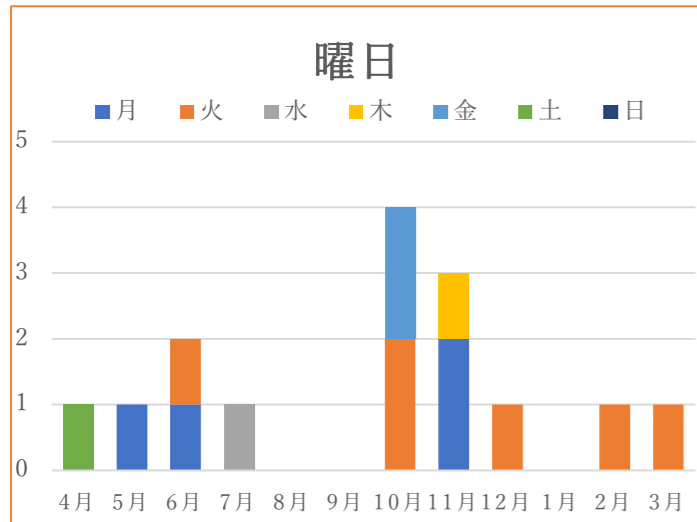
### <まとめ>

年度初めは噛みつきが多くあったが、話しが上手になるにつれて減少した。保育者が間に入り話し合っ問題解決することで、噛みつきが減少した。部屋のレイアウトが変わり、落ち着かず走り回ってしまったり、環境に慣れるまでヒヤリや怪我が多かった。静のスペースと動のスペースを作るなど、落ち着いて生活できる環境づくりをした。

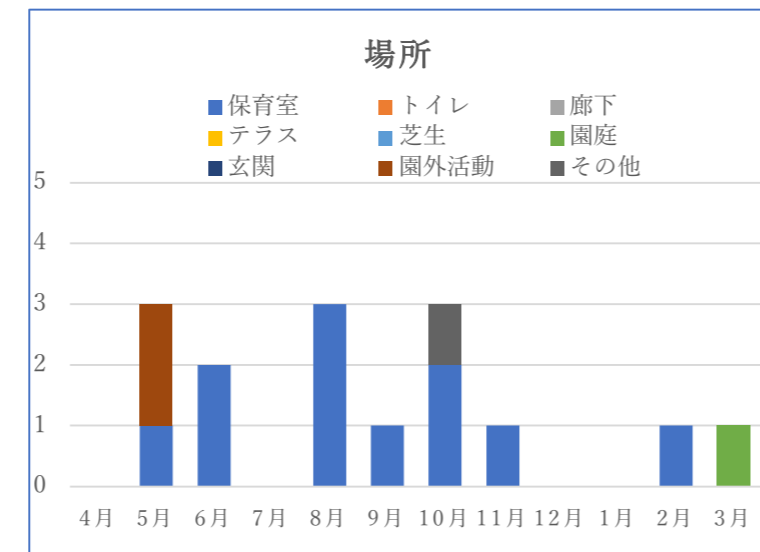
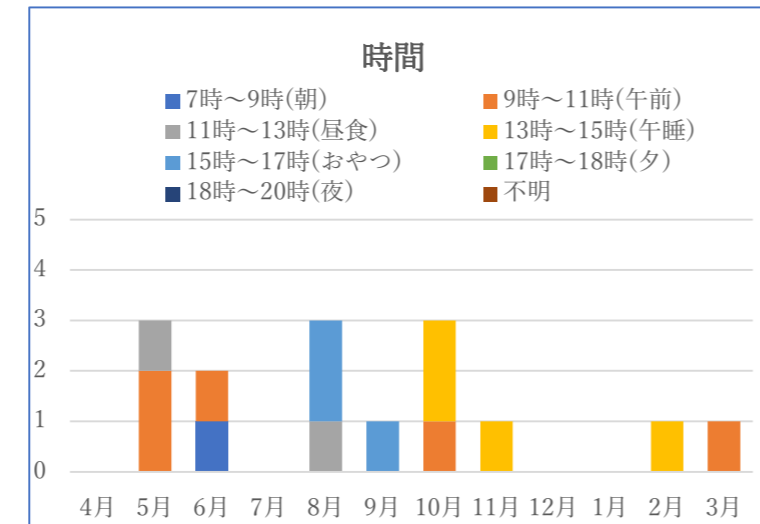
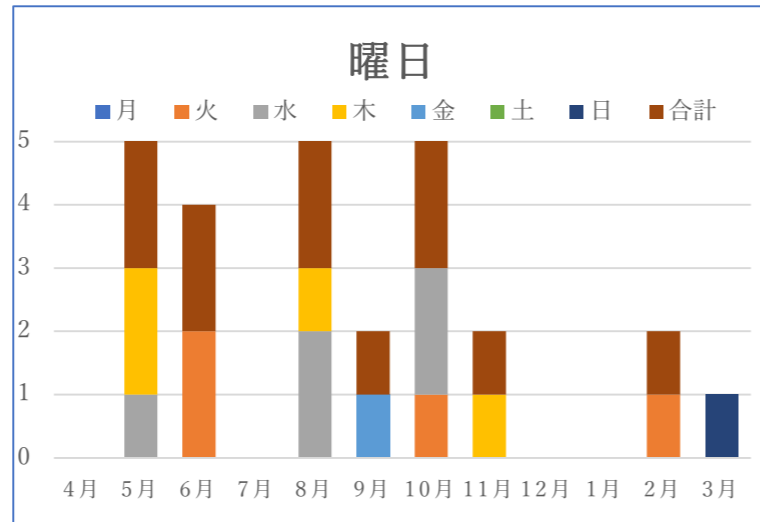
# 令和4年度 リスクマネジメント報告

## <太陽組 4歳>

### インシデント



### ヒヤリハット



### <太陽組 4歳>

- 4月 新しい環境になり、進級した喜びから走り回ったり、友だちにちょっかいを出したりしてトラブルになる。活動の切り替え時には人数を確認し、職員同士の連携をはかる。
- 5月 R.T…遊びたい気持ちから友だちにブロックを投げたり唾を吐いたりする。言葉で思いが伝えられるように保育者が気持ちを代弁し、関わりに必要な言葉を伝えて行く。
- 6月 S.S…進級してから落ち着きなく動き回り、足を引っ掛けてバランスを崩すなど転倒が目立つ。R.T…思いが通らないと色鉛筆、フォーク等投げる。子どもたちの姿を全体周知し、発達の状況をふまえて関わりを見守り、気持ちに寄り添い仲立ちができるようにした。
- 7月 当番活動が始まり子どもたちだけで活動することが増えた分、危険な場面が増える。自分たちで行えるように環境を整え、仕方や安全な方法を一緒に考えていった。
- 8月 S.S…思いが通らないと怒り、図書コーナーで自分の気持ちを切り替えようとする。職員間で居場所を把握し、図書コーナーを安全に安心して過ごせる場所にしていった。
- 9月 他児との関りが深まり、他児への指摘や無視をすることからトラブルになる。室内で縄跳びの危険な使い方があった。職員が仲立ちとなって相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちを言葉で伝えられるように関わったりしていく。遊びを見守りとともに用具の使い方を知らせ環境整備を行った。
- 10月 幼い子に邪魔されてのトラブル、用具に慣れ興味本位での行動の危険があった。異年齢児の関わりを見守り、仲立ちをしていった。用具の安全な使い方を繰り返し確認していった。
- 11月 用具の使い方に慣れたことによる不注意での怪我があったため、改めて使い方を子ども達と確認した。気持ちを上手く言葉で伝えられずトラブルになってしまうので、ヒートアップした姿に気づけるよう職員同士で声を掛け合い子どもだけの状況を作らないようにしていった。
- 12月 週の初めに不安定さを見せ、トラブルに繋がった。不安定になる気持ちを受け止め、安心して過ごせるよう配慮した。
- 2月 納得がいけないことがあると、注意を引こうとして危険な行動をとっていたので、気持ちをしっかりと受け止め様子を見守ったり話を聞いたりし、距離感を見極めながら関わっていった。
- 3月 砂場に破損した玩具が埋まっていたので定期的に砂場の掘り返しを行い、一人ひとりが片付けや異物の有無を気かけた。ロッカーに手をかけて飛び上がり怪我をした。危険性を都度伝えながら、適切な遊びを一緒に考えていく。

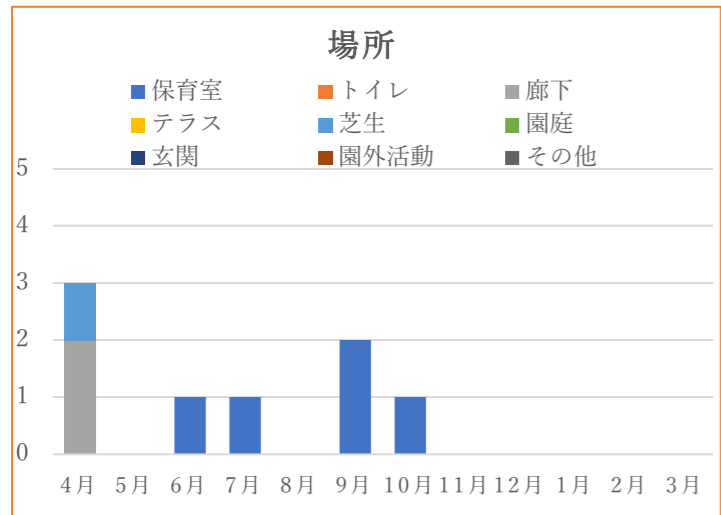
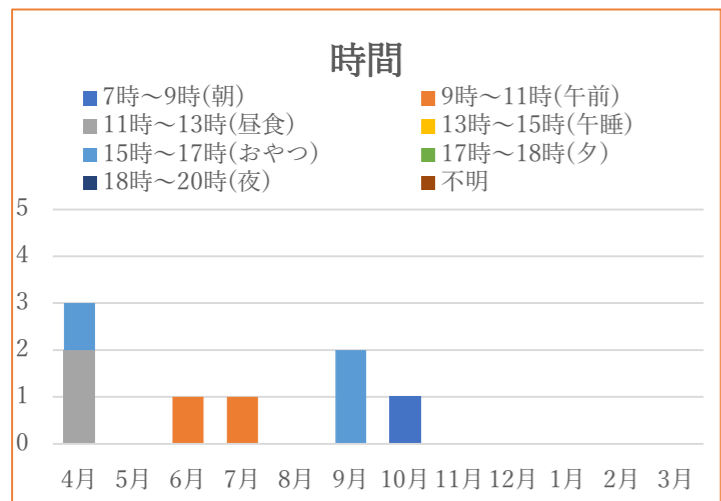
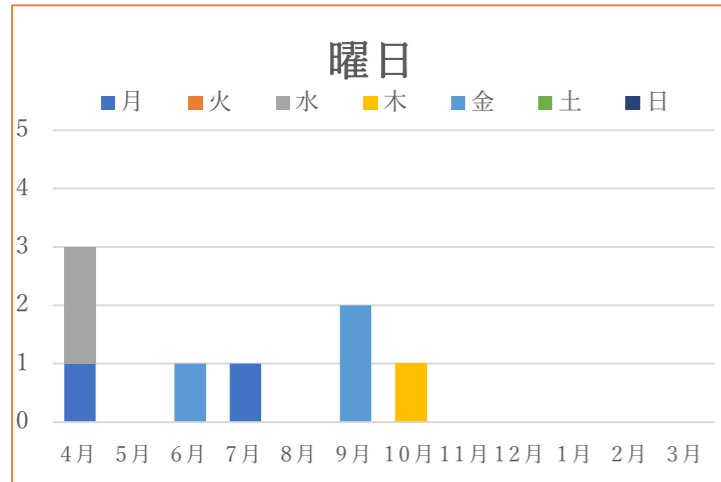
### <まとめ>

- ・生活や遊びを自分達で行う場面が増え、夢中になるあまり危険予測が出来ないことで怪我やトラブルが増えた。当番活動のなかで、整理整頓や管理を一緒に行い子どもたちの気づきを高めていく。
- ・用具の扱いに慣れ、扱いの雑さや興味本位での危険な使い方が目立った。環境を整え、くり返し用具の使い方、大切さを伝えていった。
- ・仲間意識が強くなり遊びの誘いを断られてしまう等、言葉のやり取りがうまくいかず思いが伝えられずに手が出てしまった。手が出てしまう子の状況を全体周知し、個々の発達状況もふまえて全職員で関わりを見守っていった。

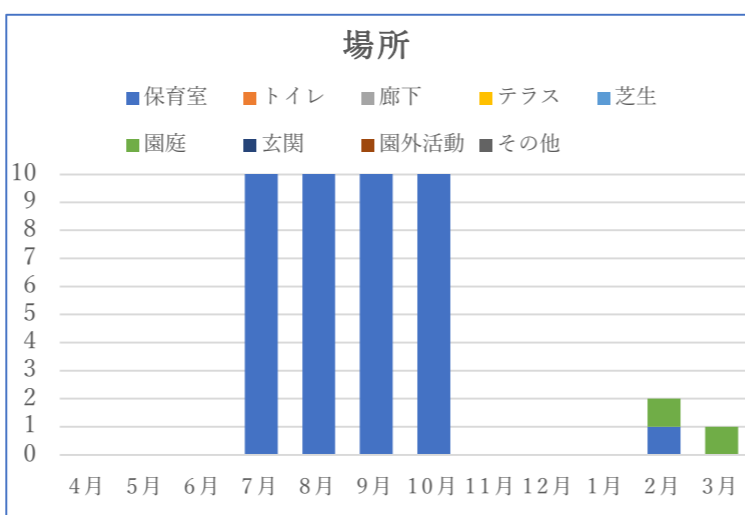
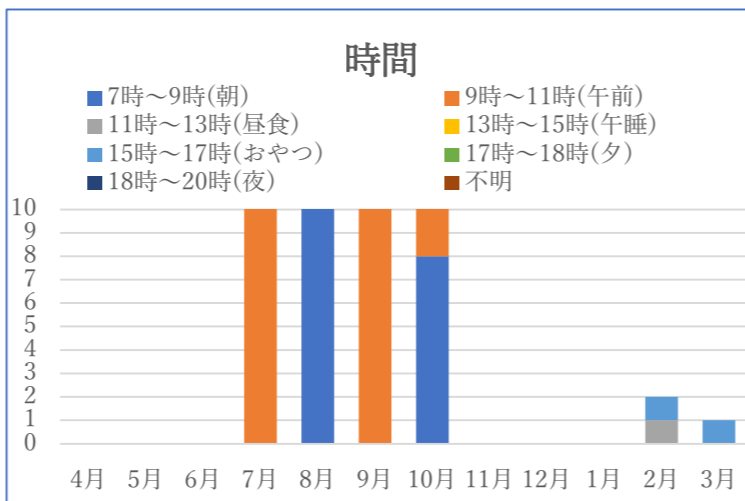
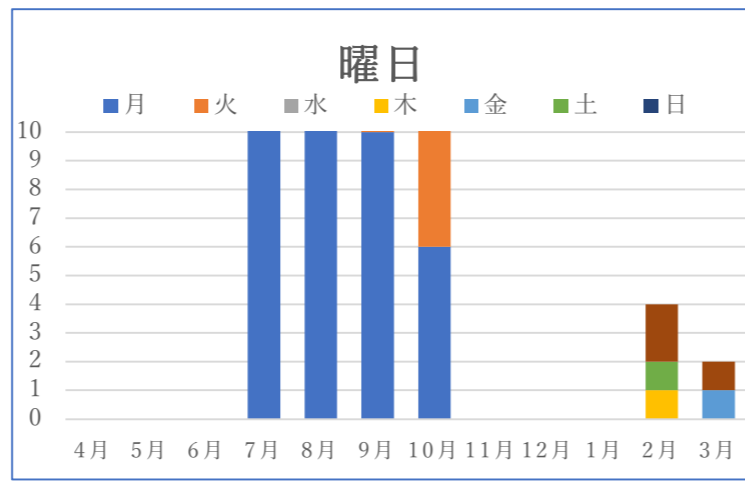
# 令和4年度 リスクマネジメント報告

## <太陽組 5歳>

### インシデント



### ヒヤリハット



### <太陽組 5歳>

#### 4月・5月・6月

書類としてあげることが出来ず、数が少なくなってしまった。担任間で声を掛け合いながら意識を高めていった。

7月 日々声掛けをする部分を、意識してヒヤリとしてあげたことで量は多くなった。同じような内容が多く見られるので、伝え方の工夫や対応の仕方を変えていった。

8月 ヒヤリに関しては似たような事が繰り返しおきていた。子ども達自身に、なぜおきてしまうか問いかけどうすれば防げるか考える時間を設けていった。

9月 手が出てしまうことからのインシが2件。ヒヤリでは鉄棒近くに職員がいなかったことがあった。物を投げることも増えている。口で言っても伝わらないもどかしさがうかがえるので、一呼吸おくように伝えていく

10月 園庭に職員がいないときに遊具を使うことが多くなっていた。どんな危険があるかをきちんと伝えていった。

11月 歯ブラシを咥えて立ち歩く子が何人かいた。午睡時間帯の外遊びでは土を投げ合う姿があった。歯ブラシを行うときには危険を確認しながら行っていく。

12月 部屋が変わったこともあり、玩具の使い方が雑になる姿があった。玩具の使い方が違うと壊れたり、ケガにつながったりすることを伝えていく。

1月 玩具を投げたり、硬い玩具が床に転がっていたりしても拾う子どもがほとんどいない。踏んだ時の危険性などを伝えながらきれいなどという部屋が過ごしやすいのかを話していく

2月 部屋や廊下を走り回る姿が目立っていた。砂、土などを投げることも増えている。なぜ危険なのかという確認となぜ行ってしまうのかということをし合っていく

3月 たたかいごっこからどこかがぶつかり、本当の喧嘩になるなどが多かった。たたかいごっこ以外の遊びに変えられるように声掛けをしていく

#### <まとめ>

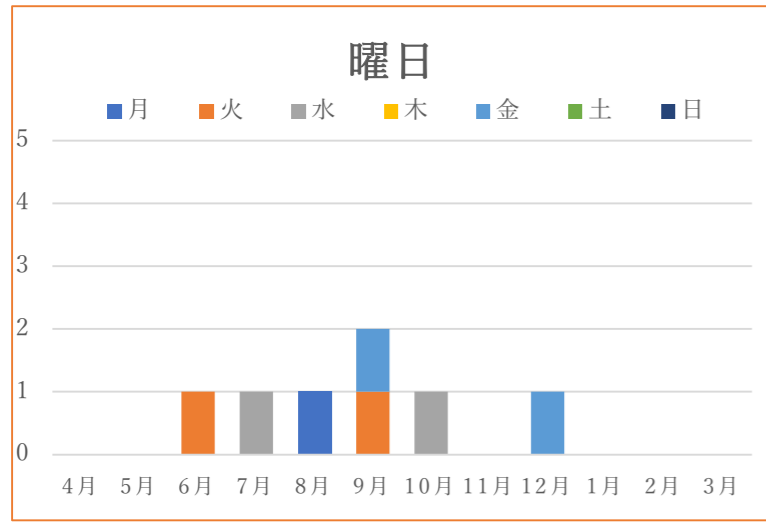
ヒヤリを上げることの難しさを感じた。些細なことではあるがそれを見逃し続けると大きなケガにつながっていく場面が多い。ヒヤリ報告書の簡略化と必要事項の検討をしてもっと簡単に出来るようにしていきたい。なぜ危険かなどを子どもたちと話しながらどうしたら良いかまで話せるとよかった。



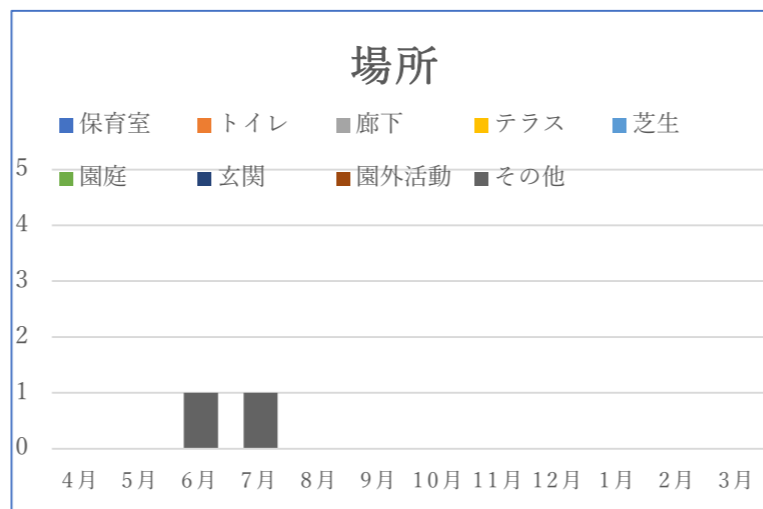
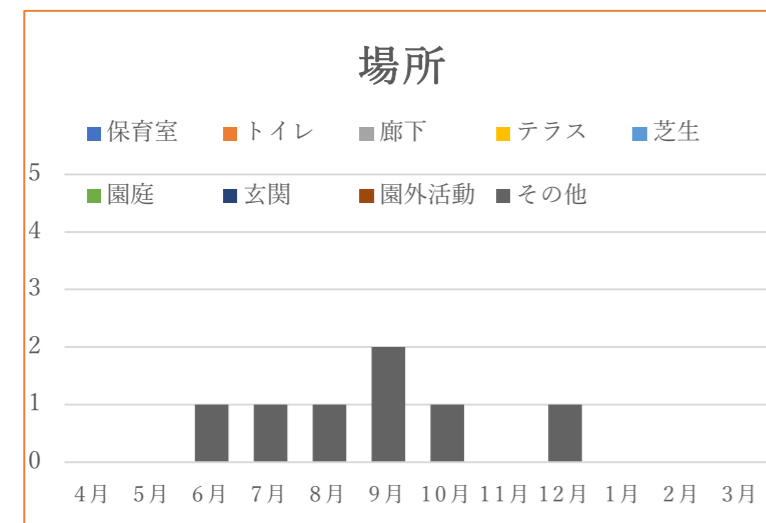
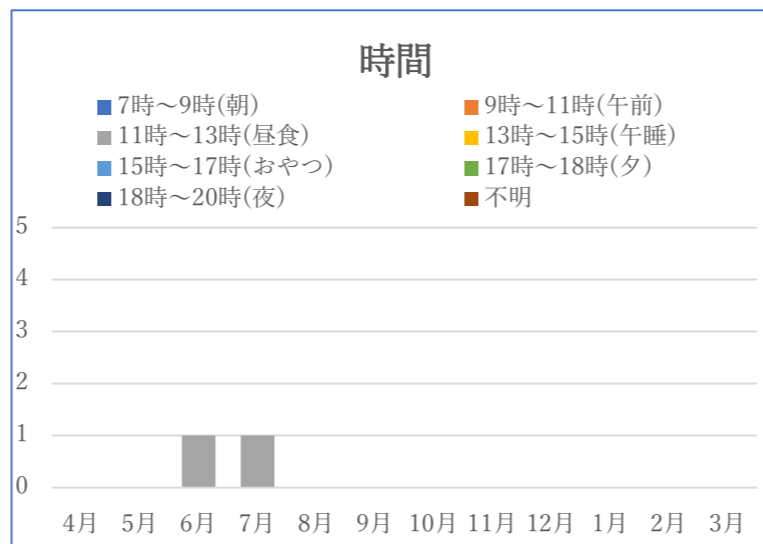
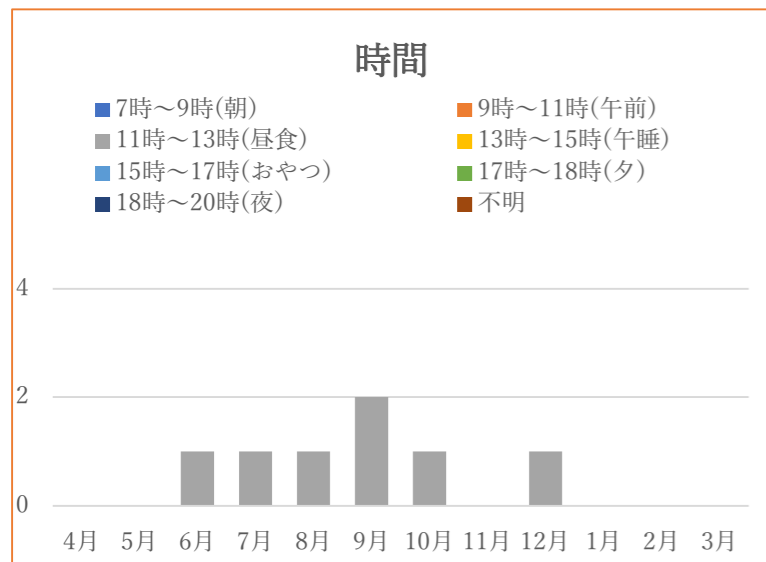
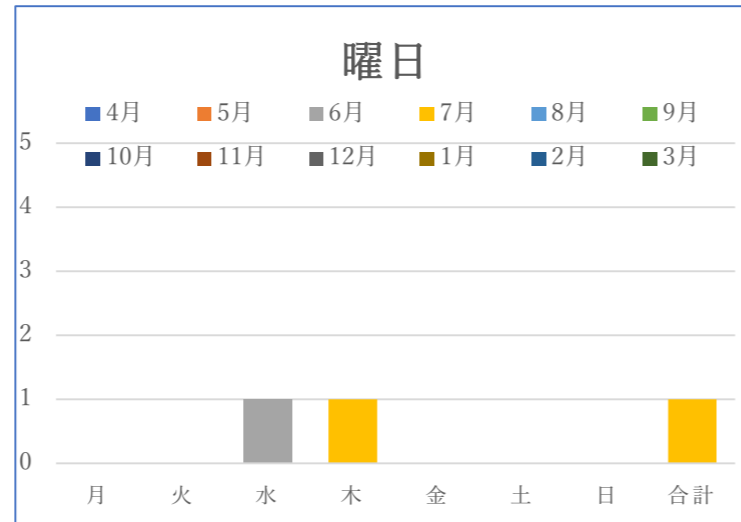
# 令和4年度 リスクマネジメント報告

## <給食>

### インシデント



### ヒヤリハット



## <給食>

- 6月 あじの西京焼きに毛髪が混入していた。食器、ラップにも毛髪が付着していないかを確認する。
- 7月 7月検食簿のアレルギー★印記入が漏れていた。必ず厨房内での二重チェックをしてから提出する。
- 8月 みそ汁にエンボス手袋の切れ端が入っていた。ニトリル手袋を使用する。よく注意して作業をする。
- 9月 本来欠席だった対象児が、人数表のアレルギー児欄に出席記入がされていて確認せずに、アレルギー食を準備してしまった。(年少児 R.T…さつま芋ご飯のゴマ抜き) 休みの記入欄も確認をする。月組の和え物に毛髪が混入していた。作業毎に手洗いをした際に、鏡を見て毛髪が出ていないか確認し、使用する器具にも付いていないか確認してから使う。
- 10月 10/5 (水) 御飯茶碗の中に虫が付着していた。食器をかごの中に格納する際は虫や汚れが付いていないか確認してから格納する。虫の侵入を防ぐために出入り口の開閉を速やかに行う。話をする場合は外に出るようにする。排水溝やごみ箱の掃除をこまめにする。
- 12月 12/2(金) 月組のサラダの中に髪の毛が混入していた。食材を混ぜ合わせる作業の時にも、一つ一つの食材に髪の毛が付着していないかよく目視する。
- 2月 2/2 おやつのおにぎり(かつお節・チーズ・醤油)に 異物が混入していた。異物→かつお節の骨のようなものであった。目視でよく確認する。

### <まとめ>

- 異物の混入がないようによく目視し、虫の混入を防ぐため保育士とのやり取りの際は扉の開閉を素早く行うよう周知した。また、身支度を整えてから給食やおやつを取りに来てもらうよう保育士にも心がけてもらい、防止に務めた。
- 欠席・アレルギー児など保育士とやり取りをし確認してく。